

U.K. イギリス

伝統と歴史ある国ながら、現代文化の流行発信地として、アートや音楽など、さまざまな分野で世界をリードするイギリス。あらゆる分野の教育、研究水準が高く、理想的な学びの場。

Canada カナダ

雄大な自然と発展した都市部を備えるカナダ。世界屈指の教育水準に加え、安全で住みやすい環境から、留学先として人気が高い。英語以外にフランス語が学べることも魅力。

U.S.A. アメリカ

歴史的に多くの移民を受け入れてきた“人種のるつぼ”であり、世界中から優秀な人財が集まる国・アメリカ。「実践」に重きを置いた教育と、選択肢の豊富さは世界一。

New Zealand ニューージーランド

穏やかな気候と美しい自然、おおらかな国民性が魅力のニューージーランド。高い教育水準を誇りながら、留学生の受け入れに積極的。安心して留学生活を送ることができる。

Australia オーストラリア

多くの移民を受け入れる多民族・多文化国家、オーストラリア。国を挙げて留学生の受け入れを推進しており、英語教育も盛ん。地理的な条件からアジア諸国との関係が深い。

子どもに
世界を体感させよう!

海外留学の すすめ

高い語学力や旺盛な好奇心、広い視野にタフな精神力……。世界で活躍する人財に求められるこうした力を、子どもに身につけさせる有効な方法は何でしょうか。それは、日本を飛び出し、海外に留学をすること。異文化社会に身を置き、現地の言葉で、現地の教育を受ける。これに勝る“グローバル人財育成”の近道はありません。本特集では、そんな海外留学の魅力や具体的な方法を紹介します。

取材・文／C-side (塩澤真樹)、西田知子、二本木昭 写真／アーク・フォト・ワークス (渡邊裕未)、貝守広貴 イラスト／タカセマサヒロ

そのギモン、専門家が解決します！

海外留学 Q&A

中学・高校編

Q1 どんな選択肢があるの？

▶ 中学・高校在学中の主な留学スタイル

中学・高校在学中に留学をする場合、大きく3つの選択肢があり、それぞれ期間や目的などに違いがあります。「何のために留学するのか」を明確にし、子どもに合ったスタイルを選びましょう。



短期留学

日本の学校の長期休暇などを利用した留学で、期間は1週間~1か月ほどが多い。いきなり1年間留学するのに抵抗がある場合、お試しとして気軽に参加できるのが魅力。現地の学校や団体が主催するものと、日本の留学エージェントや旅行会社が主催するものがあり、語学力の向上を目的とするもの、現地の生徒との異文化交流に重きを置くもの、現地の中学校や高校に短期間通学するものなど、内容もさまざま。

対象:中学生・高校生
期間:1~6週間ほど
費用の目安:30~60万円/1プログラム

一年留学 (卒業留学)

1年間海外の学校に留学し、帰国後に日本の学校に復学する留学。私費留学となるため、交換留学と比べると費用は高くなるが、国や地域、学校のほか、私立校か公立校か、ホームステイか学生寮かなどを選ぶことができ、子どもに合ったプログラムであるため、費用を安く抑えられる。ただし、留学先について希望が出せるのは国まで、地域や学校を選ぶことはできず、期間の延長や途中帰国もできない。

対象:中学生・高校生
期間:1年間
(卒業留学への転換も可)
費用の目安:200~500万円/1年

交換留学

高校生が参加できる「国際交流」を目的とした1年間のプログラム。交換留学プログラムを実施している団体・組織に申し込み、選考試験に合格する必要がある。受け入れ先は公立校で、滞在はホームステイ。実施団体、ホストファミリーともにボランティアであるため、費用を安く抑えられる。ただし、留学先について希望が出せるのは国まで、地域や学校を選ぶことはできず、期間の延長や途中帰国もできない。

対象:高校生
期間:1年間
費用の目安:100~150万円/1年

ココも押さえない! 留学扱いと休学扱い

文部科学省は「海外の高校での履修は36単位まで認められる」と定めているが、最終的な判断をするのは在籍校の校長である。校長が「留学扱い」として留学中の単位を認めれば、帰国後、同級生と同じ学年に進級できる。一方、単

位を認めてもらえない場合は「休学扱い」となり、一つ下の学年に復学することになる。日本の学校が、独自に海外の学校と提携して実施する留学(派遣留学)であれば、「留学扱い」として帰国後に進級できる。

留学扱い・休学扱いの割合



※AFS「進路についての帰国生アンケート」より(2006~2008年出願の164名対象)

大学との違いを意識して留学の目的を考える

選択肢が複数ある中学・高校での留学。どの留学パターンを選ぶ家庭が多いのでしょうか。西澤めぐみ氏、豊田圭一氏は「まずは短期留学というパターンが一番多い」と話します。その後、留学に魅力を感じた子が長期の留学に臨むことが多いそう。

中学・高校時代の留学が、大学時代の留学と異なる点について、西澤氏は次のように話します。

「中学・高校は、自我の確立の時期であり、教科の学習以上に人間教育に力を注ぐときでもあります。引込み思案な子が、留学を経験して人が変わったように積極的になることも、これは、自我が確立した大学生の留学では、なかなかありえないことです」

「そもそも留学の目的が違う」と話すのは豊田氏です。

同じ英語圏でも国民性に大きな差が

高校生の3か月以上の長期の留学の行き先で、最も多いのがアメリカ。全体の3割ほどを占め、次いでニュージーランド、カナダ、オーストラリア、イギリスの順となっています。

「純粹に『英語圏』と言える国は意外に少ないのです。日本人にとって英語圏の外国人というのと、とにかく自己主張が強いというイメージがありますが、自分の意見を押し通そうとする傾向が強いのは主にアメリカ人。実はニュージーランドやオーストラリアの人たちは穏やか、カナダ人はアメリカ人とニュージーランド人の中間くらい、といった国民性の違いがあります。一方で、アメリカ人の主張を貫き通す気質が、強いリーダーを育てるといっても過言ではありません。そうした国民性とお子さんの性格、家庭の教育方針なども勘案して留学先を決めましょう」(西澤氏)

国というくくり以外にも、意識すべき点があると豊田氏は話します。

「たとえば日本でも、東京の学校に通うのと、長野の学校に通うのとでは、学ぶ環境は大きく違いますよね。これは海外でも同じです。留学するのが都市部の学校になるか、郊外の学校になるかで、出会える先生や友人も変わります。ですから、私は、最終的には『運や縁』だと思っています。国、地域、学校を慎重に考えることも大切ですが、ときには『エイヤツ』と決断することも大事なのではないでしょうか」

海外留学のすすめ

Q2 国ごとにどんな違いがあるの？

▶ 各国の教育制度

留学を考え始めると、最初に悩むのが「どの国にするか」。同じ英語圏の国であっても、その教育制度はさまざまです。まずは各国の教育制度を確認しましょう。

アメリカ

アメリカの教育制度

| | | | | | |
|---------|---|--|---|--|---|
| アメリカの学校 | 初等教育機関 Elementary School | 中等教育機関 Middle School High School | 専門学校 Vocational School Technical School 2年制大学 Community College Junior College | 4年制大学 専科大学 リベラルアーツ カレッジ University College | 大学院 Graduate School Professional School |
| Grade | 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 | | | | |
| 年齢 | 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 | | | | |
| 日本の学校 | 小学校 | 中学校/高校 | 短大 | 大学 | 大学院 |

小学校から高校までが12年間であることは日本と同じ。ただし、教育制度は州や地域、学校単位で異なるため、日本と同じ6-3-3制をとることもあれば、5-3-4制や8-4制、6-6制をとること

もある。日本とは異なり、中1は7th grader、高1は10th graderと、小学校からの通しの学年で呼ばれる。公立校では、留学生が1年以上在籍したり、卒業することはできないため、卒業を視野に入

れた留学の場合は私立校を目指すことになる。留学生を受け入れる学校には、英語が母国語でない学生のための英語教育プログラム「ESL」が備えられていることがある。

ココも押さえない!

ボーディングスクールとは

アメリカやイギリスなどに多く存在する、私立の寮制学校のこと。少人数制で質の高い教育と、最先端の設備を備える。世界中から留学生を募る学校も多いが、年間400~700万円という費用、ESLなどのサポート体制を合わせて考える必要がある。

カナダ

アメリカ同様、教育制度は州によって大きく異なる。義務教育の年齢も州によって異なるが、6、7歳~15、16歳までが多い。国内の中学・高校のほとんどが公立校

で、留学生を積極的に受け入れており、ESLも充実している。私立校は公立校に比べて留学生の受け入れ基準が高く、かかる費用も高め。

イギリス

通常、5歳からの6年間で初等教育、その後18歳までの7年間で中等教育とされ、義務教育は16歳まで。16歳で「GCSE」と呼ばれる統一試験に合格することで

義務教育の修了資格を得る。留学生は、高校入学時に高い英語力を要求されることが多く、語学学校への通学や、学年を一つ下げた入学をすすめられることも。

オーストラリア

初等・中等教育の制度は州によって異なるが、義務教育は15歳まで(タスマニア州のみ16歳まで)。学年はYearと呼ばれ、高3はYear12となる。大学進学希望者は、

Year12修了前に州ごとの統一資格試験を受験。成績に応じて希望の高等教育機関に進学する。国を挙げて留学生の受け入れを推し進めている。

ニュージーランド

6歳から16歳までが義務教育。オーストラリア同様、学年はYearと呼ばれ、Year11~Year13では、毎年「NCEA」と呼ばれる全国共通資格試験を受ける。大学進学に

は、NCEAレベル3の受験が必要。国策として留学生受け入れに取り組み、留学生を受け入れる教育機関に対しては、国がその教育環境やサポート体制を監督している。

話を聞いたのは……

西澤めぐみ氏

留学カウンセラー。高1で交換留学を経験し、米ブリガムヤング大学を卒業。アメリカ滞在中に日本人の留学をサポートする。



豊田圭一氏

上智大学経済学部を卒業後、清水建設勤務を経て、海外教育コンサルティング事業で起業。留学コンサルティングなどに携わる。



留学DATA

青木 孝輔さん

- 留学時期 高3の8月から翌年の6月まで
- 留学先 アメリカ(ユタ州) Timpview High School

高 校生の頃、サーフィンにのめり込んでいて、雑誌で見た西海岸でサーフィンをしたいと思ったことが留学のきっかけになりました。留学カウンセラーの方に相談して、ユタ州の学校に決めました。実際に行ってみると、冬はマイナス20度になる地方都市で、想像していたのとは全然違いました。語学学校を通さずに入ったので、授業を受

けても何もわからず、とにかく一番前の席に座って話を聞いていたふりをして(笑)、吸収できるものを全部吸収しようと思いました。日々の課題も、どこが範囲なのかわからない。毎朝5時起きでこのあたりだろうと見当をつけ、その1・5倍を勉強しました。8時前になると、ホストファミリーと朝ごはん。子どもの多い家庭だったので、親子の会話や幼い子の使う簡単な英語、自分と同じ年頃の子たちの現代語まで聞ける貴重な時間でした。

学校では友だちがいなくて、放課後も何をしたいのかわからない。まずは自分を認めてもらおうと、グループに入り込んで声をかけ、断られたら次と、営業活動のように続けました(笑)。一刻も早く孤独から

抜け出したいと、その日に遊ぶ人が見つかるまで帰らないと決めていたんです。すると、3か月くらいで周りの言っていることが少しずつわかってきました。それでかなり気持ちが悪くなりました。スノーボード好きな子たちの仲間に入れてもらい、次第に友だちもできました。

留学体験を通して、自分の人格が形成し直されたような気がしています。「どんな状況下でもネガティブなことを言わない」「自分に降りかかることはすべて無駄にしない」という考えは留学なしには身につけませんでした。それまでつらい思いをしたことのない高校生でしたから、ようやく人並みになれたんだと思います。自分の殻を破

るターニングポイントになりました。また、留学を通して改めて教育の大切さを思い知りました。現在はファッションの専門学校で留学生を海外から獲得すると同時に、日本の学生を海外に送り出す事業に携わっているのですが、留学経験のすべてが生かされていると感じます。英語力以上に、留学で身につけた粘り強さや精神力が役立っています。

これから留学を目指す子どもたちには、まずどの国へ行きたいのか、ネットなどを利用してリサーチをさせてあげるといいと思います。子ども自身が道を切り拓きかけをつけてあげてほしいですね。そして、自分なりの理由を見つけて「行きたい」と言うときは、ぜひとも無条件で送り出してあげてください。

まだまだ知りたい!
中学・高校留学の
素朴なギモン

Q
費用はどれくらい?
支援制度は?

年間200~500万円以上が相場。交換留学なら年間100~150万円程度。支援制度は文部科学省のほか、各自治体で留学支援を行っています。(西澤氏)
教育ローンなどもあります。無理をして長期留学するよりは、短期留学を何度かする方がおすすめです。(豊田氏)

Q
大学入試に
影響はないの?

2年間留学をすれば、帰国生枠で比較的容易に有名私大に入れます。ただし、国公立は単身留学を帰国生枠の対象にしていることが多いので、注意が必要です。一般入試に挑戦する場合、帰国後にあえて1学年下に落として準備するケースもあります。(西澤氏)

Q
小学生でも
留学はできるの?

数は多くありませんが、小学生で留学するケースもあります。(西澤氏)
小学生の留学はすべて親主導であり、長期留学をすると子どもがアイデンティティを見失う危険性があります。小学校高学年あたりから短期留学に何度か行かせるのをおすすめします。(豊田氏)



海外留学の
すすめ

**準備に一年は必要
英語力は平均点でOK**
煩雑に見える留学準備ですが、子どもや家庭の負担となることは、ほとんどないと言います。
「交換留学は、実施団体の選考時期が決まっているので、それに乗れば自然に流れができます。一年留学の場合、留学の目的を固めることから始めて、準備に一年以上はかけたいところ

す」(西澤氏)
気になるのは必要な語学力。「留学形式や学校によって基準はさまざまですが、実は、ほとんどの中高生が、英語の成績は平均点レベルで渡航しています。英語力に不安があるのなら、ESLなどのサポートが充実する学校を選べばよいので、そこまで身構える必要はありません」(西澤氏)
「語学力と言うよりは、片言でも何とか話そうとする姿勢があるか、学校生

活をやっている感じがどうか、といったところをチェックされます」(豊田氏)
手続きなどを留学エージェントに依頼する際は、注意が必要とのこと。「語学以外に留学で何を学んでほしいか、という教育目標があるかどうかに注目しましょう。語学学校からの収益がエージェントの主な収入になるため、語学習得メインで話を進める会社は、利益優先である可能性が高いですね」(豊田氏)

ココも押さえない!

出願時に提出する書類

- 提出書類は学校や実施団体、期間によってさまざまだが、主に次のような書類の提出が必要になるため、早めの準備を心がけたい。
- ・成績証明書
 - ・エッセイ
 - ・英語力や学力テストのスコア
 - ・推薦状



どんな準備をすればいい?
試験対策は?

渡航までの流れ

情報収集や書類の準備、テストの受験など、渡航までには相応の時間を要します。留学の意志を固めたら、いつまでに何をすればよいか全体像を把握しましょう。

交換留学

- 1年半前 情報収集、団体選び
- 1年2か月前 書類選考、選考試験
- 1年前 現地への手続き
- 半年前 オリエンテーション
- 1~2か月前 渡航準備

一年留学
(卒業留学)

- 1年半前 情報収集、試験対策
- 1年2か月前 学校選び
- 1年前 出願
- 半年前 入学手続き
- 3か月前 渡航準備

短期留学

- 半年前~1年半前 情報収集
- 4~6か月前 プログラム選び
- 3~6か月前 書類準備、申し込み
- 2~3か月前 参加決定後手続き
- 1~2か月前 渡航準備

留学

語学力・学力試験の種類

英語を母国語としない留学生は、英語力を証明するスコアを提出する必要があります。一部の学校では、学力テストのスコア提出が求められることも。

交換留学

交換留学の実施団体が行う選考は、大きく分けて書類、筆記、面接の3種類。まずは申込書とともに推薦書、英語力の証明書(SLEPや英検)などを送付。それが通れば筆記試験へと進むことになる。筆記は、一般教養や英語力テスト、作文などで、面接は個人のほか保護者同伴の場合も。実施団体によって選考時期や内容が異なるため、確認が必要だ。

【主な交換留学実施団体】

- AFS日本協会
URL: <http://www.afs.or.jp/>
1954年以来、日本で交換留学を実施する非営利組織。本部はニューヨーク。日本には74の支部がある。
- YFU日本国際交流財団
URL: <http://www.yfu.or.jp/>
世界最大の国際交流組織であるYFU。日本では1958年以来、交換留学プログラムを実施している。

一年留学
(卒業留学)

アメリカ / カナダ

● SLEP
アメリカの中学や高校において、英語を母国語としない生徒を対象に行う英語力判定テスト。

● TOEFL Junior
SLEPに代わるテストとして、2011年度以降、日本で導入が進む英語力テスト。

● SSAT
アメリカやカナダで、ボーディングスクールを含む私立校で実施される学力測定試験。

イギリス / オーストラリア / ニュージーランド

● IELTS
イギリスやオーストラリアで取り入れられている、16歳以上を対象にした英語力テスト。

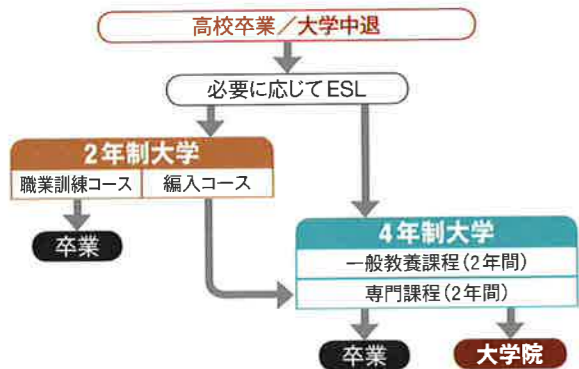
Q2

国ごとにどんな違いがあるの？

▶ **各国の高等教育のしくみ** 高等教育機関の教育制度も、国によってさまざま。留学先や留学する時期を考えるにあたって、まずはその制度を知っておきましょう。

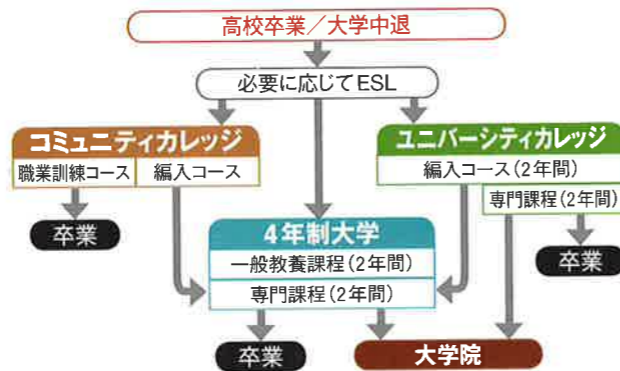
アメリカ

アメリカには、4年制と2年制の大学があり、その数は合わせて約4600校。専攻の豊富さや入学難度の幅広さは世界随一である。2年制大学には、実務に役立つ実践的なスキルを学ぶ「職業訓練コース」と、4年制大学への編入を見据えた「編入コース」がある。比較的、入学難度の低い州立や私立の2年制大学に留学し、その後4年制大学の3年次に編入する留学生も多い。



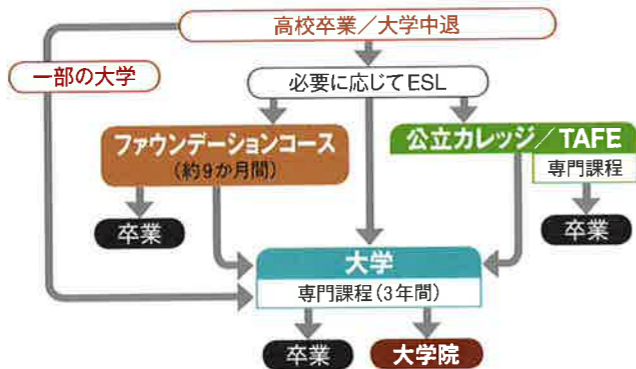
カナダ

アメリカと同様に2年制と4年制の大学があり、そのほとんどが州立。大学間のレベルの差は少なく、教育水準は高い。総じて入学難度が高く、直接4年制大学に入学するのは難しいため、語学学校や2年制大学の編入コースを経て、4年制大学に進学する留学スタイルが一般的である。近年、2年制大学と4年制大学、両方の性格を備えたユニバーシティカレッジも増えている。



イギリス

約100校の総合大学があり、1校を除いてすべて公立。入学後すぐに専門課程に入るため、大学は3年間、大学院では通常1年間で学位を取得できる。そのため、日本の高校を卒業した学生が進学する場合、直接進学することは難しく、英語力を養いながら、大学で専攻する分野の基礎知識などを学ぶ「ファウンデーションコース」を経由することがほとんど。



オーストラリア ニュージーランド

オーストラリアには公立大学39校と私立大学2校、ニュージーランドには国公立大学8校がある。大学間に教育水準の差はほとんどない。イギリス同様、高校卒業後に直接大学へ入学することは難しく、「TAFE」や「Polytechnic」といった公立専門学校を経由することもあ

卒業留学は現実的にはアメリカという選択に

異文化体験に重きを置く中学・高校時代の留学とは異なり、大学での留学は、就職を視野に入れて留学先を選ぶことが大切です。

「交換留学や私費での1年留学であれば、就職活動でアピールできるストーリーをつくりましょう。語学力以上に大事なことは、海外で何を学んできたか。海外大学に留学したことで、人間的にどう成長したのかが問われます」(西澤氏)

卒業留学の留学先は、現実的には、ほぼアメリカになると言えます。

「一つは、大学の数です。学士号を取得できる大学の数は、アメリカで約2800校、日本で約760校、イギリスやカナダで約100校。アメリカには幅広い選択肢があり、あまりハイレベルな英語力を要求しないなど、留学生の受け入れにも積極的です。その上、学べる内容を見ても、ほかの国々がアカデミックな傾向が強いのに対し、アメリカの大学は実学志向。就職にも有利です」(西澤氏)

アメリカの大学が、日本と似たカリキュラムであることも魅力です。

「興味のある分野が決まっていなければ、アメリカが無難でしょう。1、2年次が一般教養課程で、その後専門課程へ、というカリキュラムは日本人に馴染みやすいですし、編入や専攻の変更も容易です。あのドラッカーがいたクレアモント大学など、隠れた名門校も多いんですよ」(豊田氏)

大学編

Q1

どんな選択肢があるの？

▶ 高校卒業以降の主な留学スタイル

高校を卒業した後に留学する場合、学士号や修士号などの学位の取得を目的としたものと、学位取得を目的としないものの、大きく分けて2つの選択肢があります。

学位取得目的

大学進学

高校を卒業した後、あるいは、日本の大学を中退した後に、海外の大学に直接出願。卒業まで在籍して学位取得を目指す留学。ほかの留学と比べて求められる英語力や学力は高くなるが、語学力に加え、日本にはない学問や最先端の研究から得られる専門知識、異文化の中で身につけた視野や価値観は、グローバル化が進む現代において大きな武器となる。

学位取得目的でないもの

交換留学

数週間～1年間、日本の大学が交流協定を結んでいる海外の大学で講義を聴講する留学。留学中も日本の大学に籍を置くことになり、学費は日本の大学にのみ納めることが一般的。留学先が限定されるものの、留学中の単位が認定され、留学が理由で留年することはない。留学可能な大学や募集人数、選考試験の内容は大学によってさまざまなので、在籍校に確認する必要がある。

認定留学

日本の大学が交流協定を結んでいるかどうかを問わず、学生自身が留学先を選んで出願し、入学許可を得た上で行う留学。留学中も日本の大学に籍を置き、一定の条件を満たすことで留学中の取得単位が認定される。日本の大学を通さず、自らすべての手続きをすることになるため、交換留学と比べて準備に時間がかかるが、留学先の選択肢が広がるのが魅力。

休学留学

認定留学と同様に、交流協定によらず、学生自身が留学先を選んで出願する留学。日本の大学を休学して留学することになるため、その期間は日本の大学の修業年限に算入されず、卒業が遅くなる。その代わりに、留学先で何をするかは学生の自由。語学学校に通って英語力向上を目指したり、ビジネスやツーリズム、アート系などの専門学校に通うことも可能。

学費の支払先:

在籍校に支払うのが一般的。

単位認定:

留学期間も在籍校の修業年限として算入。取得した単位は交流協定の範囲内で認定される。

学費の支払先:

在籍校と留学先校の両方に支払うのが一般的。

単位認定:

修業年限、留学先での取得単位ともに、在籍校で認められることがある。

学費の支払先:

留学先校のみに支払うのが一般的。

単位認定:

修業年限は算入されないが、取得単位を認定する学校もある。

その他

インターンシップ

日本の大学の長期休暇を利用して、現地で働きながら語学力や異文化理解力を高めることを目的としたインターンシップ。日本の大学がプログラムとして実施している場合もある。日本の大学の修業年限に影響がない上、就職活動に生かされるとあって人気が高い。

語学留学

海外の大学に付属する語学学校や、大学に属さず独立して運営する語学学校に通うことを目的とした留学。初心者から上級者まで豊富なコースがあり、1週間という超短期の留学も可能。また、現地の大学への進学準備を目的としたコースもある。

海外留学のすすめ

同じ「交換留学」という用語でも、中学・高校の留学と大学の留学では、概念が違うので注意が必要です。

「中学・高校の交換留学は、AFSなどの団体を通じて行う1年間の留学。大学の交換留学は、日本の大学が各自で海外の大学と提携して行うプログラムという意味になります」(西澤氏)

まず、日本で進学した大学の用意した短期留学プログラムに参加し、その後、交換留学に応募するのが一般的。「定員が少なく、条件が厳しいことが多い交換留学の選考に落ちってしまった場合、あるいは、交流協定によらず広く留学先を選びたい場合に、認定留学を目指すことが多いですね」(西澤氏)

上に挙げたほか、専門学校や2年制大学などで学ぶ選択肢もあります。

「ただ、そうした学校に入るのは、日本と同じで、何らかの分野に特化した職業教育を受ける人たちです。つまり、大学卒業後、世界を相手にリーダーとして活躍するような人生を想定しているならば、留学先にも4年制大学を選ぶべきでしょう」(豊田氏)

語学留学は、日本で外国人向けの日本語教室に通う外国人のことを考えると、イメージしやすいと言えます。

「そのほか、何かを学ぶというのではなく、日本の大学を休学して海外での生活を1年間体験したい、というニーズもあります。1年の留学なら、気軽に楽しんで来られるぐらいの感覚でもいいのかもしれない」(豊田氏)

日本の大学が用意する交換留学がポピュラー

も

ともと英語が好きで、語学に興味があったのですが、留学を意識したのは大学に入る前。実は第一志望に落ちて、浪人考え始めたとき、それより第二志望の大学に進んで留学した方が爽やかだ、と考えると考えたからです。周りには帰国子女の友人が多くて、今さら英語をやっても彼らに勝てないと感じていました。そこで、スベ

留学DATA

浦山 泰之さん

- 留学時期
大学3年の9月から大学4年の7月まで
- 留学先
スペイン(カスティーリャ・イ・レオン州)
Universidad de Salamanca

に興味があったのですが、語学に興味があったのですが、留学を意識したのは大学に入る前。実は第一志望に落ちて、浪人考え始めたとき、それより第二志望の大学に進んで留学した方が爽やかだ、と考えると考えたからです。周りには帰国子女の友人が多くて、今さら英語をやっても彼らに勝てないと感じていました。そこで、スベ

なれるんです。一緒によくバルに飲みに行ったりもしていました。でも、オンとオフを切り替え、学ぶときは学ぶ。授業のレベルが高いですし、課題の量もハンパじゃないです。日本の学生の10倍は勉強しているのではないのでしょうか。その違いが一番の驚きでした。友だちに追いつきたい、もっと勉強したいという意欲がわいてきて、結局、大学卒業後、サラマンカ大学の大学院に再び留学することを決めました。留学して日本を外から見る経験ができたことは、とても大きかったと思います。日本を客観的に見られるようになり、視野が広がりました。日本と違って、向こうでは言いたいことを言わないと巻き込まれてしまいます。自己主張できるように

り、行動力がついた結果、性格も変わったように思います。現在は建設コンサルタント会社でベルーの遺跡の管理プロジェクトに携わっています。現地のコーディネーターをするのが主な仕事。調整が必要な場面も多く、現地の人と対等の目線で話をしなければなりません。留学して身につけた自己主張する力や行動力が大いに役立っています。もしも子どもが留学したいと言ったら、行かせた方がいいと思います。その意志を大事にしてあげれば、自分の進むべき道を見つけてくれるでしょう。僕自身も大学4年で留学したので就活ができなかったのですが、自分のやりたいことについていきました。留学は将来に向けてのステップアップになるはず。

留学で語学力は
どう変わった？

留学前は身振り手振りを使っての日常会話レベル。語学留学を経て、基本的な単語・文法を使ってコミュニケーションがとれるレベルに。帰国時には生活に支障ない語学力がつきました。

留学前の
語学学習法は？

コスタリカの語学学校で、どんな質問を投げかけても明確に説明してくれる、よい先生に出会えたので、その期間を利用して大学を休学し、コスタリカへ3か月の語学留学をしました。

準備にかかった
期間は？

交換留学が決まってから半年でスペインに渡りました。「今のままの語学力ではまずい」と感じていたので、その期間を利用して大学を休学し、コスタリカへ3か月の語学留学をしました。

世界へと視野が広がる留学でステップアップ

まだまだ知りたい！
大学留学の
素朴なギモン

費用はどれくらい？
支援制度は？

生活費込みで年間110～500万円程度。同じアメリカの州立大学でも、西海岸の大学は高く、内陸部の大学は年約100万円と安いです。また、アメリカの大学は奨学金が充実していて、学力やスポーツ、リーダー経験などの実績で、授業料が免除されることも。(西澤氏)

就職活動に
影響はないの？

1年間の留学なら、就職活動の解禁日から逆算して、大学2年の後半から3年の前半あたりで渡航するケースが多いです。(豊田氏)
一年留学や卒業留学の場合、現地で開催されるキャリアフォーラムで内定を得る学生が多いですね。(西澤氏)

どうやって
情報集したらよい？

留学エージェントを利用する場合は、数社から話を聞いて、知識量や実績の多寡を見極めるとよいでしょう。(西澤氏)
留学経験のある大人に話を聞きましょう。できれば、人事や人財紹介の仕事をしている人を2～3人見つけるのがベストです。(豊田氏)

海外
留学の
すすめ

Q3 求められる英語力・学力は？

主な英語力テスト

TOEFL iBT

英語を母国語としない人の英語力を測るテスト。日本で実施されているのは、「iBT (Internet-based Test)」のみ。アメリカやカナダの大学を中心に利用されている。結果は0～120点のスコアで表され、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4セクションで試験が行われる。

データ
所要時間:約4時間30分
試験日:土・日曜を中心に年30～40回
会場:日本各地の指定会場
URL: <http://www.ets.org/jp/toefl/>

IELTS

英語圏のうち、主にイギリス、オーストラリア、ニュージーランドの大学への留学の際に用いられるテスト。大学への留学では、「Academic Module」を受けることになる。日本では英検を運営する日本英語検定協会が試験を実施。1.0～9.0のスコアで示される。

データ
所要時間:約2時間45分
試験日:東京は毎月2～3回。横浜は月1回。埼玉は年3～4回(その他の会場は要確認)
会場:東京、横浜、埼玉など計13都市
URL: <http://www.eiken.or.jp/ielts/>

英語レベルの目安

| TOEFL iBT | IELTS | 英検 |
|-----------|-------|-----|
| 100～115 | 7.5 | 1級 |
| 79～89 | 6.5 | 準1級 |
| 69～70 | 6.0 | |
| 61 | 5.0 | 2級 |
| 52 | 4.0 | 準2級 |
| 40 | 3.5 | |
| 32 | 3.0 | 3級 |
| 23 | 2.5 | 4級 |

求められる英語力は、留学する国や大学、学科、専攻によってさまざまだが、一般にアメリカではTOEFL iBT61以上、カナダでTOEFL iBT90以上、イギリス・オーストラリア・ニュージーランドではIELTS6.0～7.0程度を求められることが多い。

主な学力指数・テスト

GPA

「Grade Point Average」の略。主にアメリカの大学において、学力を示す指数として入学審査の際に提出が求められる。アメリカの大学は、日本のセンター試験のような一斉に行う入学試験がない代わりに、高校以降のすべての高等教育機関で発行された成績証明書を提出する必要がある。その成績は、独自の換算方式で指数化され、GPAとして重要な判断材料となる。アメリカの大学進学の際に目安となる最低ラインは、日本の5段階評価の3にあたる、GPA2.0以上。

SAT/ACT

「Scholastic Assessment Test」の略。アメリカの多くの大学が受験を義務づけている共通学力テスト。年に7回実施されており、繰り返し受験することも可能。同様のテストに「ACT (American College Testing)」がある。

ココも押さえない!

条件つき入学

アメリカやオーストラリア、イギリスでは、出願時に英語力が不足でも、GPAなどの条件を満たせば「条件つき入学」として合格内定を得られることがある。内定後は、語学学校で英語を学び、基準をクリアすることで入学が認められる。

「最近では、英語力のない留学生を対象に、語学研修と大学の一般教養課程の授業を、同時並行して効率的に学べるようにした『パスウェイ』という制度を設ける大学も出てきました。パスウェイ導入校は、留学生受け入れに積極的と言えるでしょう」(西澤氏)

「高校の成績は、3学年分すべてをGPAに換算して見られますので、高1から学校の勉強をしっかりやっておく」と選択肢が広がります。英語力は、国や大学によって基準は異なりますが、一般にアメリカでTOEFL iBT 61以上が目安です」(西澤氏)
多くの日本人留学生が、現地の語学学校に通いながら学ぶことになりました。「民間の語学学校に通うケースと、大学付属の語学学校で英語コースを受講するケースがあります」(豊田氏)
イギリスやオーストラリアの大学では、英語に加え、レポートの書き方などのスキルや、大学の基礎科目を学ぶ9か月のファウンデーションコースを受講した後、大学への進学が許されることも。

大学への留学の場合、英語力以上に重視されるのが学力です。特に、高校以降すべての成績を平均して求めた「GPA」は、留学時に欠かせない判断基準となっています。

高校の教科の成績は
3学年すべて見られる

大学の留学では、TOEFLなどの英語試験のスコアの提出が求められます。「ほかに、英文のエッセイ、大学によっては、高校の担任の先生や英語教員の推薦状などが必要になることもあります」(豊田氏)
しかし、英語力以上に重視されるのは高校の成績です。

